

## 複数の事業を展開する総合商社が 受発注から入金処理まで一元管理し 重複する無駄な業務の自動化を実現



### 導入の狙い

- ・部門ごとに異なるシステムの統合
- ・重複入力などの無駄な業務を自動化

### 導入システム

- ・基幹業務システム  
『SMILE V 販売／会計／人事給与』
- ・給与明細電子化ソフト  
『Web給金帳』
- ・開発ツール  
『SMILE V Custom AP Builder』

### 導入効果

- ・受発注から入金処理まで一気通貫で行えるようになった
- ・3日かけていた全体数字の把握がリアルタイムで可能に
- ・販売と会計のシームレスな連携で業務を効率化
- ・給与明細書のペーパーレス化と効率化を実現

### USER PROFILE

#### 小平株式会社

#### 【業種】総合商社

【事業内容】エネルギー（LPG・電気の販売）、国際貿易（農水産加工物の輸出入）、ITソフトウェア開発、アグリビジネス（農業）、ガソリンスタンド事業など多角的に展開

【従業員数】68名（2022年6月現在）



2022年6月取材

1912年に鍛冶屋として創業、現在は鹿児島を代表する総合商社として九州地域のみならずグローバルに事業を展開している

鹿児島市に本社を構える小平（こびら）株式会社は、エネルギー事業や国際貿易、IT事業などを多角的に展開している総合商社だ。これまで部門ごとに個別運用してきた基幹業務システムを『SMILE V 販売／会計／人事給与』に統合することで、全部門の受発注から入金処理まで一気通貫で行える環境を整備。OSKと密接に連携を図りながら新システムの構築作業を実施し、カスタマイズを行うことなく、重複する業務の自動化を実現するなど、顕著な成果をもたらしている。

## エネルギー事業や国際貿易など 多角的な事業で地域社会に貢献

100年以上の歴史を持つ小平株式会社は、1912年に鍛冶屋として創業された。時代ごとにコア事業を変遷させながら、常に成長し続けているのが特長だ。現在は、エネルギー（LPG・電気の販売）、国際貿易（農水産加工物の輸出入）、ITソフトウェア開発の3つの事業を中心に、ミニトマト栽培などのアグリビジネス（農業）やガソリンスタンド事業など、多角的に展開する総合商社へと発展。「地域に根ざし、世界で勝負する」をスローガンに、九州のみならず、アメリカ、タイ、インド、ベトナム、中国などでグローバルなビジネスを展開している。

主力のエネルギー事業では、2022年にブランド名を「やさしいエネルギー」に変更。地域の実情に合ったエネルギー資源を選択できる総合エネルギー企業として大きくステップアップしている。

その一方で、積極的な地域貢献活動も行っている。2020年に温泉街の鹿児島県東市来町湯之元に整備した公園は、街おこしのイベントなどで有効活用されている。その公園には、誰でも無料で利用できるシェアカフェを開設し、地域で飲食店の開業を目指す人を支援している。

代表取締役社長の小平 勘太氏は、「シェアカフェでテストマーケティングを行い、既に独立開業された方もいます。地域が発展すれば、エネルギー事業も比例して伸びていくので、今後も地域活性化事業を継続的に推進していきます」と語る。

代表取締役社長  
小平 勘太氏

「今回のシステム構築によって、これまで手作業で行っていた煩雑な業務がほぼ自動化されました。現在も、自宅からアクセスして利用することは可能ですが、今後は、さまざまなクラウドサービスを連携させながら、テレワークに対応した環境を整備していきたいです」



取締役  
永山 秀嗣氏

「SMILE Vは奥が深く、こちらの期待に応えてくれるシステムです。課題に直面しても、必ずその解決策が見つかります。実際にシステム構築の作業を行う中で実感しました」



生産性の高い業務に集中できる環境を目指し、『SMILE V』によるシステム刷新を図った

## 部門ごとに異なるシステムを刷新し 『SMILE V』でデータの一元化を図る

同社は自社開発の基幹業務システムを長年運用していたが、事業内容が多岐に渡ることから、部門ごとに異なるシステムが稼働していた。そのため、事業規模の拡大による業務量の増加に伴い、克服すべき課題が表面化してきた。

経理業務を担当している総務部 副部長の富ヶ原 佑介氏は、「本社の経理部門では、各部門の報告書を一つに取りまとめ

ています。ところが、部門ごとにシステムが異なるためデータがばらばらで、経理部門でデータの再入力が必要なうえ、伝票入力や入金処理など、社内でも同じ作業を何度も繰り返し行う無駄な作業が発生していました」と語る。

そこで、取締役の永山 秀嗣氏が、チームリーダーとなり、社内の業務改革に取り組むことになった。自社で独自システムを開発すると、新しい機能を追加する度に時間と手間がかかってしまうため、今回のシステム刷新では最初からパッケージシス

テムの活用を念頭に置いていた。

「まず、複数社のパッケージシステムをインターネットで調べて比較表を作成するところから始めました。その中で、最も興味をひかれたのが、SMILE Vです。パッケージでありながら標準機能で処理できる範囲が広く、複数の業態に柔軟に対応できる。そして、受発注から入金処理まで一気通貫で行える。こんなシステムは初めてでした」(永山氏)

ほかのシステムは専門用語が多く、社員に説明しづらい印象があった。その一方で『SMILE V』のメニューや機能名称には専門用語がほとんどなく、操作方法がシンプルで分かりやすい。これなら社内でスムーズに展開できるようになると判断できた点も選定の決め手となった。

## フィット&ギャップ分析で 従来の課題を一つずつ解決

同社は、2020年12月に『SMILE V 販売／会計／人事給与』の導入を決定。その後、永山氏を中心に社内でF&G(フィット&ギャップ)分析を実施し、具体的なシステム構築作業を進めていった。

「OSKさんと販売店のアンクスさんと密接にやりとりをしながら、自社の業務プロセスとSMILE Vの標準機能を照らし合わせて、従来の課題について、一つずつ細かく確認していきました。その結果、カスタマイズを行うことなく上手く当てはまる解決策を導きだしました。その際、具体的なアドバイスをもらったので、自分たちだけでは気づかなかったことが少しずつ見えてきました」(永山氏)

大きな成功要因の一つとして、OSKから貸し出されたデモ機の活用もある。実際の操作画面を見ながら現場の担当者と話し合いをすることで、社内の業務改革は一気に加速した。

例えば、エネルギー事業では、以前はLPGの仕入は1カ所でまとめて行い、伝票処理で各事業所に分配していた。しかし、税務監査が入ったときに、内部取引であるが故に質問が多かったという。そこで、各事業所で直接商品を仕入れる運用に変更。LPGの仕入処理を各事業所で行うようにしたことで作業が効率的、かつ明確になった。

また、以前は、販売と会計は別システムで運用していたので、販売管理の売上や仕入データを会計側に再入力し、入金処理の照合などを行う必要があった。しかし、『SMILE V』に移行したことで販売と会計のシームレスな連動を実現。これまで手動で行っていた業務上の手間が一気に省けるようになった。

「システム導入時に一番危惧していたことは、現場の社員からの反応でした。使い慣れたシステムから変更されることに抵抗を感じる社員もいるかもしれないと思っていました。ところが、実際に新システムの操作画面を見せると、『すごく便利なので早く使いたい』と好評で、むしろ積極的に活用してもらえて、旧システムからの移行もスムーズでした」(永山氏)

## 受発注から入金処理まで一元管理 業務プロセスを大幅削減

2021年11月に新システムは本稼働した。VPNで結ばれた本社と各事業所はトータル20台の端末で運用を開始。業態が異なる9つの部門のデータを一元化し、全部門の受発注から入金処理まで一気通貫で行える環境を整えた。

「全体の業務プロセスが相当省力化されました。以前は受注伝票1,000件に対して、同じ入力作業を4回繰り返していたのですが、その作業が一切なくなり、まさに圧倒的な導入効果につながっています。支店からデータ収集を行うタイムラグがなくなったことも大きいです」(永山氏)

また、販売と会計のシステムが連動したことで、これまで手間のかかっていた入金処理などの効率化も実現した。経理業務の負担は大幅に軽減している。

「以前は、手作業のため4、5人で10日程かかっていた売上と仕入の連携処理が、月に1回、経理部門でボタン一つで自動的に行えるようになりました」(冨ヶ原氏)

「全社のシステムが統合されたことで、全体数字の確認に3日必要だったのがリアルタイムに把握できるようになりました。これまでデータ加工に使用していた大量のExcel作成も不要になり、生産性の観点からも大きなメリットです。本稼働から1年経っていないためまだデータ不足ですが、

執行役員 総務部 部長  
池田 亮平氏

「新システムの導入を機に、社内の業務改革の機運が一気に高まっています。まだ紙の文化が根深くあるのですが、今後はペーパーレス化も推進し、非効率な業務は極力自動化していきたいです」



総務部 副部長  
冨ヶ原 佑介氏

「SMILE Vを導入したことで、各部門から統一されたデータが送られてくるようになり、経理業務の負担が格段に軽減されました。今後は会社全体の業務の効率化を進めていきます」





今後データが蓄積された段階で、SMILE Vの分析機能も積極的に活用していきたいです」(小平氏)

『SMILE V 人事給与』の導入に併せて、給与明細電子化ソフト『Web給金帳』も新たに導入、連携して活用している。以前は、社員の給与明細書は紙に印刷して封入、配布と多くの時間と手間をかけていたが、給与明細書をメールで自動配信することで、その手間が一気に省け、ペーパーレス化にも貢献している。

同時に、開発ツール『SMILE V Custom AP Builder (CAB)』も導入した。それにより、取引先の仕様や時代の変化に合わせた独自の帳票を社内で手軽に作成できるようになった。

次ステップとして、『SMILE V 社有車・点呼管理業務テンプレート』の導入も決まった。こちらは、道路交通法改正に伴い、業務に使用する車のドライバーのアルコールチェックが義務化されたことに対する対応だ。さらに、『eValue Vドキュメント管理』を活用した電子帳簿保存法に対応する取り組みも進めている。

そのうえで、今後の展開として、クラウドSaaS型基幹業務システム『SMILE V Air』の導入も視野に入れている。クラウド環境の利用によって、自宅や外出先からセキュアに業務システムへアクセスできる環境を整え、多様な働き方に対応すること

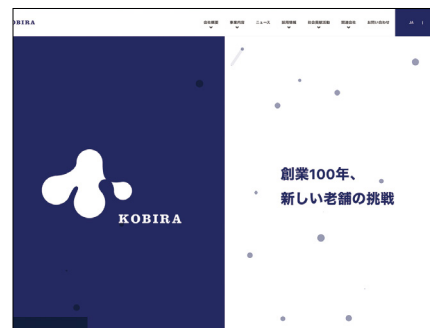


業態が異なる9つの部門のデータ一元化を実現し、全部門の受発注から入金処理まで一気通貫で行える環境を構築

が狙いだ。

執行役員 総務部 部長の池田 亮平氏は、「最終的には、システムで極力自動化を進め、単純作業はなくしていきたいです。その分、社員一人一人がより生産性の高いクリエイティブな業務に集中できる環境を整備すること、それが今後の重要なミッションです」と語る。

新システムを導入した後も、既に一步先を見据えた業務改革に着手している。



小平株式会社のホームページ

<http://www.kobira.co.jp/>

お問い合わせ